

令和元年7月25日

会員各位

鎌倉市医師会会長 山口 泰  
地域保健担当理事 蔵並 貴子  
宮下 明

## 認知症施策推進大綱の送付について

神奈川県医師会を通じて通知がまいりましたのでお知らせいたします。  
こちらは鎌倉市医師会HPにもアップロードしてありますので、ご確認ください。

日本医師会常任理事  
江澤 和彦



### 「認知症施策推進大綱」の送付について（情報提供）

時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、わが国の認知症対策については、平成27年1月に「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」が定められ、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現に向けた取組が推進されております。さらに、平成29年の介護保険法改正において、認知症に関する知識の普及・啓発、リハビリテーション、介護者支援の施策の推進、本人及びご家族の意向の尊重等が新たに盛り込まれたところです。

このような状況の中、平成30年12月に、政府一体となって総合的に対策を推進することを目的として「認知症施策推進関係閣僚会議」が設置され、本年6月18日に「認知症施策推進大綱」が取りまとめられました。

本大綱では、基本的な考えとして、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進していくとし、更に、①普及啓発・本人発信支援、②予防、③医療・ケア・介護サービス・介護者への支援、④認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援、⑤研究開発・産業促進・国際展開という、5つの柱に沿って施策を推進していくことが示されました。

本会においても当該大綱を入手いたしましたので、ご参考までにご送付いたします。貴会におかれましても、地域における認知症施策の推進にお役立ていただきませう、よろしく願い申し上げます。

記

・認知症施策推進大綱 概要

# 認知症施策推進大綱(令和元年6月18日認知症施策推進関係閣僚会議決定) (概要)

## 【基本的考え方】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、認知症の人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」※1を車の両輪として施策を推進

※1 「予防」とは、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味

## 世界の認知症戦略

**英国**

- 認知症戦略
- 2009年に認知症に関する5年計画として発表。2015・2011年に国家アルツハイマー計画が発表され、2012年以降の新たな戦略を策定。2012年に同法に基づき計画を策定。

**米国**

- 認知症戦略
- 2009年に認知症に関する5年計画として発表。2015・2011年に国家アルツハイマー計画が発表され、2012年以降の新たな戦略を策定。2012年に同法に基づき計画を策定。

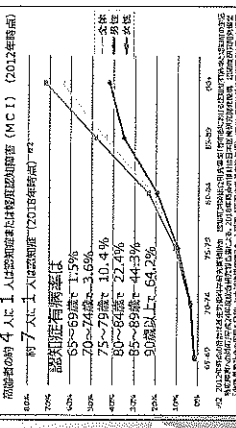
**フランス**

- 認知症に関する国家戦略
- 2009年に認知症に関する5年計画として発表。2015・2011年に国家アルツハイマー計画が発表され、2012年以降の新たな戦略を策定。2012年に同法に基づき計画を策定。

**オーストラリア**

- 認知症に関する国家戦略
- 2009年に認知症に関する5年計画として発表。2015・2011年に国家アルツハイマー計画が発表され、2012年以降の新たな戦略を策定。2012年に同法に基づき計画を策定。

## 我が国の認知症有病率等について



## コンセプト

認知症は誰もがなりうるものであり、家族や身近な人が認知症になることなども含め、多くの人にとって身近なものとなっている。

生活上の困難が生じた場合でも、重症化を予防しつつ、周囲や地域の理解と協力の下、本人が希望を持って前向きに力を減らし、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる社会を目指す。

運動不足の改善、糖尿病や高血圧症等の生活習慣病の予防、社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持等が、認知症の発症を遅らせることができることを踏まえ、予防に関するエビデンスを踏まえ、正しい理解に基づき、予防を含めた認知症への「備え」として70歳代の発症を10年間で遅らせることを目指す。また、認知症の発症や進行の仕組みの解明や予防法・診断法・治療法等の研究開発を進める。

## 具体的な施策

認知機能の低下のない人、フレグニカル期、早期発見・早期対応(二次予防)、発症後の進行を遅らせる取組(一次予防※3)の推進

認知症の低下のある人(軽度認知障害(MCI)含む) 認知症の人 認知症の人本人の視点に立った「認知症バリアフリー」の推進

認知症に関する理解促進 認知症サポーター養成の推進 子供への理解促進

① 普及啓発・本人発信支援

② 予防

③ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

④ 認知症バリアフリーの推進

⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会

目指すべき社会

主要KPI/目標

① 普及啓発・本人発信支援

② 予防

③ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

④ 認知症バリアフリーの推進

⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

期間：2025年まで

※3 認知症の発症遅延や発症リスク低減 ※4 認知化予防、機能維持、行動・心理状態の予防・対応

※5 認知症のバリアフリーの取組(例えば、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)の整備、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)の整備、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)の整備)